

(別紙様式2)

## 普及指導員調査研究報告書

課題名：宇部・美祢地域の特色を活かした園芸産地の継承

所属名：美祢農林水産事務所

担当者氏名：幸坂有規、野村和輝、迫村竜也、塩田幸恵、川野祐輔、浅谷由佳、仲尾まどか

### <活動事例の要旨>

園芸産地を維持・発展させていくためには、遊休施設等を有効に活用し、新規就農者の負担を軽減させながら、新たな担い手を確保していくことが重要である。

対象産地の熟度に応じて、継承資産の確認・就農モデルの作成・受入体制整備・新規就農者の募集から定着に向けた活動を展開した。

### 1 普及活動の課題・目標

宇部・美祢地域では、地域農業を代表する園芸産地が複数展開されているが、生産者の高齢化による離農や、担い手の減少による既存施設・園地の遊休化が発生しており、園芸産地を維持していくことが困難な状況になってきている。園芸産地を今後も維持・発展させていくためには、新規就農者の確保・育成が必要であることから、前プロジェクトでは産地と関係機関が一体となり、新規就農者の募集から定着までの受入体制整備に向けて取り組み、一定の成果が出ている。しかし、近年の急激な資材価格の高騰に対応するため、遊休施設等の有効活用の必要性が高まっている。

そこで、関係機関で連携のうえ各産地・品目において経営モデルを明確化するとともに、継承可能な栽培施設・園地等の資産を整理し、その情報共有と資産を有効活用できる体制を整える。また、産地の熟度に応じた新規就農者受入体制の整備と効果的な募集活動の実施、新規就農者の産地への定着に向けた実践活動の強化に取り組む。

目標項目	基準年 R5年	実績 R7年	目標 R8年
現状に即した就農モデルの作成	—	1	2
対象品目における新規就農者数（予定含む）	—	2	4

### 2 普及活動の内容

課題	活動対象
1 関係機関・部会が一体となった新規就農者受入体制づくり	小野茶業組合 美祢アスパラガス生産部会
2 新規就農者の募集から定着までの実践活動の強化	小野田アスパラ生産組合 秋芳梨生産販売協同組合 美祢ハウレンソウ生産部会

## (1) 関係機関・部会が一体となった新規就農者受入体制づくり

### ア 小野茶業組合

- ・昨年度作成した「永続的な産地の維持に向けて」を踏まえ、経営の改善、作業受委託による園地の維持・継承対策、機械共同利用体制、販売強化など産地維持に向けた取組について、関係機関で役割分担しながら取り組んだ。
- ・土壌環境を改善し生産性向上を図るため、有機炭施用や中耕の試験を実施した。
- ・令和7年度実績をもとに経営指標を作成し、地元企業に対し園地継承による栽培を提案した。
- ・地元企業からの要望を踏まえ、更新せん定による園地の維持・保全のため、中切り（更新せん定）を行う機械の実演を行った。
- ・生産者の施肥実績と、招へいした他県の元普及指導員の指導をもとに栽培暦を見直した。



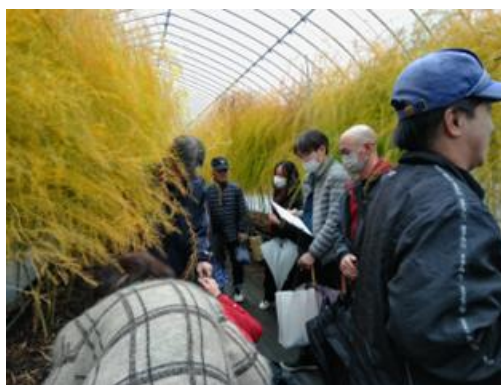
中切り作業



中切り後の茶園

### イ 美祢アスパラガス生産部会

- ・共同選果を行う下関の産地と栽培管理を統一（肥料の切替）し、栽培マニュアルを改訂するため、美祢地域に即した元肥量を検討する肥料試験を実施した。
- ・アスパラガスを新規就農希望者へ提案するため、美祢地域における経営指標を作成し、就農モデルの作成に向け組合せ品目の検討を行った。
- ・新規就農者受入体制作りの意識醸成に向け、先進地視察の取組を支援した。



先進地視察

## (2) 新規就農者の募集から定着までの実践活動の強化

### ア 小野田アスパラ生産組合

- ・地域で継承可能な遊休施設等の情報収集を行うため、地域の関係機関会議で情報提供を呼び掛けた。
- ・新規就農者2名の栽培開始に向け、生産組合員と連携して、ほ場づくりや栽培管理に係る技術指導を行った。
- ・今後の新規就農者（栽培者）の栽培管理の参考となるよう、生産組合員に聞き取りを行いながら、新規栽培に対応した栽培暦を作成した。

## イ 秋芳梨生産販売協同組合

- ・従来から実施している営農意向調査アンケートの内容について、関係機関で協議し、営農意向の把握に加えて、担い手確保の取組に対する意識向上を目的として、新たに担い手確保に関する項目を追加して調査した。
- ・昨年度に続き、組合役員と新規就農者とともに新規就業ガイダンスに出展したほか、市移住部署と連携して産地見学ツアーを初めて開催し、新規就農者の募集活動を強化した。
- ・新規就農者向けに、基礎知識を習得する栽培講習会を実施した。
- ・新規就農者の受け皿となる青年同志会（若手組合員の集まり）の活動の活性化に取り組んだ。



新規就業ガイダンスへの出展

## ウ 美祢ホウレンソウ部会

- ・新規就農者の定着に向け、部会やJAと連携して現地巡回を実施した。

## 3 普及活動の成果

### (1) 関係機関・部会が一体となった新規就農者受入体制づくり

#### ア 小野茶業組合

地元企業の園地継承による栽培の意向を確認することができたとともに、今後の園地維持管理に向けた取組が整理され、地元企業、既存生産者が連携して耕作放棄地を解消していく合意も得られた。

#### イ 美祢アスパラガス生産部会

当初の基準から元肥を約3割削減した施肥設計による肥料試験の結果、これまでの基準どおりの追肥を行うことで、栽培期間中の肥効を維持できることが確認できた。肥料代の削減が期待され、美祢地域の栽培マニュアルへ反映することとなった。

美祢地域におけるアスパラガスの経営指標が明確となり、就農モデルの作成に向けて具体的な組合せ品目を整理することができた。新規就農者受入体制作りに向けた意識醸成は今後も必要であるが、県・JAが連携し、生産部会に対して産地の維持・発展に向けた取組を検討する体制が強化されつつある。

### (2) 新規就農者の募集から定着までの実践活動の強化

#### ア 小野田アスパラ生産組合

遊休施設等の情報収集について、地域の関係機関会議において呼びかけたところ、情報数としては多くなかったものの、遊休状態の施設等ではないかというような情報が出てくるようになった。

今年度就農した2名の新規就農者のうち、1名は令和7年春に定植し、令和8年2月から収穫を開始した。もう1名は、ハウス建設の都合で令和8年春に定植することとなり、ほ場準備を進めている。生産組合の出荷量が増えることに対し、市場からの期待も高まっている。

新規栽培に対応した栽培暦の作成では、ベテラン生産者への聞き取りを通じて、特に1年目のほ場づくりに関する重要性やポイントを整理・明確化することができた。また、施肥設計については、土壌分析の結果、肥料の過剰投入となっているハウスが多いことが明らかとなったため、残存窒素の動向を見つつ見直していく方針を確認できた。



新規就農者ハウスにおける現地研修会

## イ 秋芳梨生産販売協同組合

営農意向調査アンケートの実施により、最新の営農意向を把握でき、さらに、アンケート結果のフィードバックを通じて、青年同志会が中心となって取り組んでいる担い手確保の取組の組合全体への理解促進につながった。

新規就業ガイダンスに、組合及び1経営体（組合員）が出展し、合わせて5名程度に対し産地のPRができ、うち1名の産地見学ツアーの参加に繋がった。

産地見学ツアーは関係機関と連携して開催することができ、5組7名の参加があった。産地の紹介だけでなく、収穫体験や移住者との交流、他品目の紹介等、充実した内容となり、参加者の満足度も高く、うち1名の空き家相談に繋がった。

青年同志会が中心となってSNSで産地情報を継続的に発信する仕組みを整備し、実践できた。積極的な担い手確保の取組に対する意識が向上し、主体的な新規就農者募集ポスターの作成・配布に繋がった。また、担い手確保・育成に関する先進地視察の実施により、新規就農者の受入体制の整備に向けて機運が高まった。



産地見学ツアーの開催



先進地視察

## ウ 美祢ホウレンソウ生産部会

部会、関係機関で情報共有を行い、新規就農者の定着に向けた活動支援を行うことで、生産安定に向けた栽培技術の習得が着実に進んでいる。

## 4 今後の普及活動に向けて

園芸産地の継承は、活動対象の熟度や関係機関の支援体制等により、対象への働きかけが異なるが、目標を共通認識して取り組むことが重要である。

小野茶業組合は、組合員が減少する中、耕作放棄地を継承する意向のある地元企業が見つかったことから、その定着に向け、継承園地の選定や機械利用体制の整備等を支援していく。

美祢アスパラガス生産部会は、整理した組合せ品目をもとに就農モデルの具体化を進め、募集・受入活動等の体制整備を支援していく。

小野田アスパラ生産組合は、生産組合の活動を通じて、新規就農者の定着を図るとともに、更なる新規就農者（栽培者）の確保に向けた募集活動の強化や地域内外の遊休施設等の情報整理を支援していく。

秋芳梨生産販売協同組合は、募集活動や産地PRを強化していくとともに、継承候補園の維持管理体制の整備等、新規就農者の受入に向けた取組を支援していく。

美祢ホウレンソウ生産部会は、新規就農者の定着に向けた部会活動を継続するとともに、部会や関係機関の担い手確保に向けた意思醸成を図るため、施設継承等に係る情報を整理・共有していく。